

# 四年に一度の踊りを披露

## 小塩御福田田植踊り

「小塩御福田田植踊り」とは、小塩地区に江戸時代から伝わる豊作の祈りをこめた踊りで、地中で眠る田の神を起す場面からはじまり、田植えや収穫などの動きを題材にしています。四年に一度、うるう年に地区内の新築や結婚などの祝いごとがあった家で披露され、町指定無形民俗文化財になっています。

今年、2月28日に地区内の2軒の家々と公民館で披露されました。はじめに葉山大権現に仕える法印らが慶事のあった家々を巡り、五穀豊穡や無病息災を祈りました。その後法印の法螺を合図に、入れ替わりで踊り手の「テデ衆」「早乙女」

や演奏担当の「下座」など約20名が座敷に上がって踊りを披露。踊りが披露される家や公民館には多くの人が集まり、盛り上がりが出てくると見物客からおひねりが飛び交うなど、賑やかな行事となりました。

田植踊りは東北の民俗芸能で、山形県内だけでも10か所以上に存在しますが、小塩に伝わる踊りには他とは異なる二つの特徴があります。

一つ目は御福田行事が郷土芸能である田植踊りを取り込んでいることです。昔、餅のことを「フクデ」と言っていたそう、三宝を敬って供養する「福田」という言葉に結びつき、「御福田」となったといわれており、小塩の御福田田植踊り行事には必ず餅が登場します。

二つ目は、座敷で踊るといことです。家の者よりも下段の庭先で踊るのが一般的ですが、小塩では踊り手は前日の水垢離で清められ、神の使いとされ、家の者より上段で踊ります。保存会の森谷正幸会長は「座敷に上がるのは全国的にも珍しい。おそらく小塩だけだろう」と話していました。

伝統芸能をひと目見ようと地区民を始め町外からも多くの人々が集まり、地区内は活気にあふれていました。



一人畳半畳ほどのスペースで豪快な踊りを披露



今年から田植踊り保存会に新加入した皆さん。写真左から、渡邊晃輔さん、井上直之さん、渡辺亮介さん。伝統文化を遅く継承していきます。



公民館で行われた踊りの後、来場者にもちが振舞われました。



水垢離で身を清める

2月27日の夜、身を清めるため、踊り手が水垢離を行いました。厳しい冷え込みの中、大きな声で気合を入れ、一気に水をかぶる踊り手の皆さん。水をかぶるたびに、見学していた方たちまでも悲鳴や歓声をあげ、明日行われる踊りへの期待を高めていました。

## それぞれの分野の力を結集

# 女性まつり

2月11日、町女性団体連絡協議会主催の女性まつりが中央公民館を会場に開催されました。会場では各女性団体や個人による作品展示、

毛糸を使ったタワシ作りの体験、風呂敷の様々な使い方の講習会、包丁研ぎ、ヘルシー料理展示等が行われました。大ホールでは太極拳やフラダンス、民舞、民謡、キッズダンス、ヒップホップダンスなど様々なステージ発表が行われ、それぞれが活動の成果を披露しました。

午後からは、声優で講師の「一龍齋春水さん」による「童謡詩人 金子みすゞの生涯」13編の詩を織り込んだ新作講演会が開催されました。会場には270名以上の聴衆が来場し、春水さんの声優としての豊かな経験談と臨場感あふれる講演に聞き入っていました。展示やステージ発表のほか、地元産つや姫のおにぎりや、すもものソフトクリームの試食が行われ、来場者は思い思いに各コー



一龍齋春水さん。講演に熱がこもりました。



講演会では大ホールが満員になりました。

包丁研ぎコーナー。毎年常連のお客さんが増え大忙し。

ナーをめぐり、イベントを楽しんでいました。それぞれの分野で活躍する町内の女性の力により、見所いっぱいのおまつりとなりました。



「すももソフトクリーム美味しそう」

## 桜町 大沼絏一さん 瑞宝双光章を称える 記念祝賀会



大沼絏一さん(左)と、妻 美智子さん

大沼さんは山形大学を卒業後、本県中学校、特別支援学校に勤められ、教材や支援機器を開発し、学習効果の向上に取り組んでこられました。特に、酒田・山形両豊学校において、磁力線伝達方式による集団補聴器、赤外線ステレオ補聴システムを開発し、多くの生徒の学習を助けてきました。その功績が高い評価を受け、昨年春の叙勲で瑞宝双光章(教育功労)を受章されました。大沼さんは、山形豊学校長、ゆきわり養護学校長を歴任し、現在は山形理容学校校長として勤務されています。

2月6日、叙勲記念祝賀会が山形市内のホテルで開催され、関係者が長年の功績を称えました。



商工会女性部によるふるしき講習会



作品展示コーナー

